



通信

2023. 9. 26 Vol. 162

公益社団法人 福島原発行動隊

東京都千代田区神田淡路町1-21-7

静和ビル 1階A室 〒101-0063

Tel: 03-3255-5910 Fax: 03-3525-4811

Mail: svcf-admin@svcf.jp Web: http://svcf.jp

第 129 回院内集会

第 129 回院内集会は 2023 年 9 月 22 日、オンライン (Zoom) により行われました。

テーマは、11 月開催予定の第 131 回院内集会「福島第一原発廃炉事業の現況」に向けての事前学習でした。集会には初参加の 1 名および講師を含め 12 名の方が参加しました。

集会では、イチエフウォッチャーの中島賢一郎氏による 2022 年 10 月以降の福島第一原子力発電所の廃炉進捗状況の報告を受け、第 131 回院内集会において報告者の東京電力他に確認する事項の絞り込みを行いました。

報告後の質疑以下では、廃炉の執行体制、廃炉達成時期、海洋放出が開始された ALPS 処理済み汚染水・凍土壁の耐用年数・護岸からの漏えい情報・豪雨対策等の汚染水対策、圧力容器ペDESTAL 下部コンクリートの全周消失が明らかになり原子力規制委員会から対応を迫られている 1 号機の状況、いまだに確定していない燃料デブリの大規模取り出し工法等における技術革新の現状について質問意見が集中しました。

これらの質疑をもとに、11 月集会での確認事項を絞り込んだ結果は下記の通りです。

質疑では、東京電力・政府等を講師としイチエフ廃炉の現況について議論しうる、他にはあまり例を見ない行動隊の院内集会が、命がけで廃炉作業に参加するとして諸先輩の熱意で実現したことを意識し、集会には東京電力・政府等と、一方的にはではないが、状況を共有するという姿勢で臨むことの大切さが語られました。

【11 月院内集会 (廃炉事業の現況報告) での確認事項】

1 2023 年 7 月東京電力「1 号機 PCV 内ペDESTAL の状況を踏まえた対応状況」についての解説 (1 号機ペDESTAL の耐震性の再評価、地震等により RPV が傾斜・沈下した場合の PCV から漏れる放射性物質を抑制する対策、水位低下計画と閉じ込め機能確認試験のスケジュールの調整、1 号機大型原子炉建屋カバーの仕様の変更の有無、PCV の局所的腐食)

2 2023 年 8 月原子力損害賠償・廃炉等支援機構燃料デブリ取り出し工法評価小委員会「燃料デブリの大規模取り出しに向けて」についての解説 (燃料デブリ取り出し工法についての検討状況)

3 凍土壁の耐用年数についての見解、および地下水・豪雨時の雨水流入対策等についての現状と見通し。

4 ALPS 処理済み汚染水の海洋放出後も、ALPS 処理済み汚染水等からトリチウムを分離する技術を追及し続けていることについての見解。

【参考】

2022年9月の第117回院内集会「福島第一原発
廃炉事業の現況」

[http://svcf.jp/wp/wp-content/uploads/2022/09/svcf-t
suushinn1150-08-1.pdf](http://svcf.jp/wp/wp-content/uploads/2022/09/svcf-t
suushinn1150-08-1.pdf)

東京電力、廃炉等支援機構(NDF)、資源エネルギー庁により以下が確認された。

- ① 2021年2月の震度6弱の福島県沖地震以来、原子炉格納容器(以下、PCV)水位から見て、徐々にではあるが1・3号機PCVの損傷は拡大している。
- ② PCVは経年劣化しつつある。
- ③ 多核種除去設備(以下、ALPS)から取り出された高濃度放射性スラリー(泥漿)を保管する

高性能容器(以下、HIC)の放射線劣化によるリスクの潜在的影響度が大きい。と

- ④ 燃料デブリの取り出しについて、2号機での燃料デブリの試験的取り出しの開始時期が2021年から2023年後半へと後倒しされた。
- ⑤ 燃料デブリの取り出しについて、「中長期ロードマップ第6版」で主な工法として示されている気中横アクセス工法には課題があり、新・冠水工法案(船殻工法)にも課題がある。
- ⑥ 燃料デブリの取り出しについて、デブリの位置等について現時点でのあらゆる可能性を考慮し、概念的検討の結果として複数の取り出し工法案(船殻工法を含む)を示している。

福島県移住者相談会

福島原発行動隊は、福島復興を支援する活動の一環として2022年10月以来月例の院内集会で、福島県内町村の首長に「明日のわがふるさと」の展望を、また避難生活を強いられてきた原発事故被災者に「わがふるさとへの想い」を語ってもらってきました。10月には帰還県民ではなく、県外、海外からの移住者が「移ってきたふるさと福島への想い」を語る集会を開催します。被災県民が戻ってくるのを待つばかりではなく、移住者を迎えていくことが福島県の新たな復興/振興策となっているからです。10月1日に東京・有楽町の東京交通会館で「福島くらし&しごとフェア 来て、見て、知って」と題する移住相談会(福島県庁企画調整部ふくしまぐらし推進課主催)が開催されます。2017年以来7回目で69団体が参加する最大規模の相談会です。詳細は以下のURLで。

https://fukushima-kurashi-shigoto2023.jp/?gclid=EALalQobChMIscWnkZC_gQMVG8wWBR18kQDrEAEYASAAEgLVdvD_BwE

【行動隊10月スケジュール】

下記の会議・集会はどなたでもご参加いただけます。

- 院内集会
 - ・日時:11日(水)10:00
 - ・講師:大熊町に移住してきたフランス人エミリーさん
 - ・テーマ:「移住してきた”わがふるさと”への想い」
- 『SVCF通信』
25日(水)発行。
- 連絡会議
以下の各金曜日 10:30
10月6、13、20、27日

